武 田 病 院 グ ル ー プ

Vol.06　平成27年9月　発行

医仁会武田総合病院　地域医療連携室だより

救急告示病院　臨床研修指定病院
医療法人　医仁会　**武田総合病院**　発行
京都市伏見区石田森南町28-1
TEL　075-572-6331（代表電話）

理 念

- 思いやりの心

基本方針

- ブリッジ・ザ・ギャップス
- 患者さんの権利尊重
- 信頼の医療に向けて
- 地球にやさしい環境づくり

環境方針

① 省資源・省エネルギー
② 廃棄物の減量化
③ リサイクルの推進
④ 安全性・快適性の推進
⑤ 環境広報活動の推進

今月の特集

～脳神経外科のご紹介～

平素は当院の運営にご尽力賜りありがとうございます。
今月は当院の**脳神経外科**のご紹介をさせていただきます。
当院の脳神経外科は、常勤医6名（全員が脳神経外科学会専門医、脳卒中学会専門医）で運営しています。
守備範囲は、脳の外科はもちろん、欧米にならい脊髄や末梢神経の外科をカバーしており、神経全般の外科といえます（当科の呼称は神経外科といえます）。
頭痛、腰痛、下肢痛、上肢痛、しびれなどの症状がございましたらご紹介ください。手術適応の判断・ご相談のみ、セカンドオピニオンにも対応しております。
また9月からは、救急に特化した神経救急部門をたちあげ、救急専門医が常駐しております。また夜間には脳外科専門医が24時間体制で当直をしておりますので時間をとわず、遠慮なくご紹介、ご相談ください。

脳神経外科外来診療担当医表

月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	神経救急
田中　秀一 **医長** 脳神経外科専門医 脳卒中専門医 脊髄外科専門医	**横山　邦生** **医長** 脳神経外科専門医 脳卒中外科専門医 脊髄外科指導医 神経内視鏡技術認定医	**川西　昌浩** **部長** 脳神経外科専門医 脳卒中専門医 脊髄外科指導医 血管内治療専門医	**山田　誠** **血管内治療部部長** 脳神経外科専門医 脳卒中専門医 脊髄外科専門医 血管内治療専門医	**川西　昌浩** **部長** 脳神経外科専門医 脳卒中専門医 脊髄外科指導医 血管内治療専門医	**伊藤　裕** **医長** 脳神経外科専門医 脳卒中専門医 脊髄外科専門医	**杉江　亮** **神経救急部部長** 脳神経外科専門医 脳卒中専門医 救急専門医

どのような治療をしているの？

（米国実習風景）

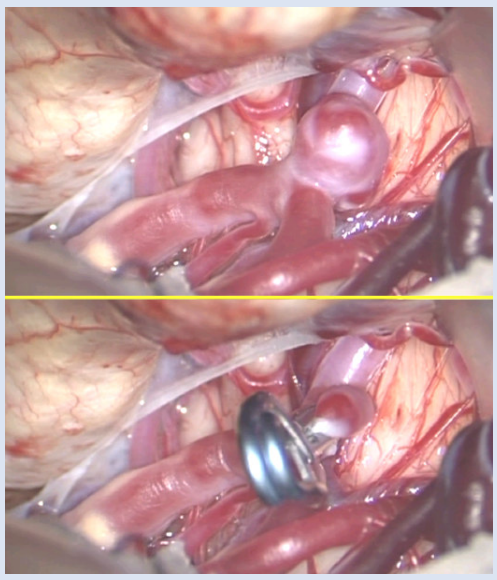
神経に関係する手術ならば、頭から首・腰・手・足まで手術治療を行っております。
手術方法も神経全般をカバーすべく、顕微鏡をもちいたマイクロサ―ジェリー、神経内視鏡を用いた内視鏡手術、カテーテルを用いた血管内治療、穿刺針をもちいた最小侵襲手術（IVR）を駆使して、従来の治療にこだわることなく、その患者さんに最も適した低侵襲治療を選択しております。

神経の手術に合併症は許されません。常に最もよい手術治療ができるように、専門医・指導医となっても常勤医全員に国内・海外での解剖手術実習の参加と多施設見学を年3-4回義務づけ、難易度の高い手術の実戦練習（シミュレーション）や最先端の手技・手術の習得を常に心掛けています。

当院で行っております代表的な治療を実際の画像を用いて、ご説明いたします。

脳神経外科での治療例

脳動脈瘤に対する開頭クリッピング術と血管内治療（コイル塞栓術）



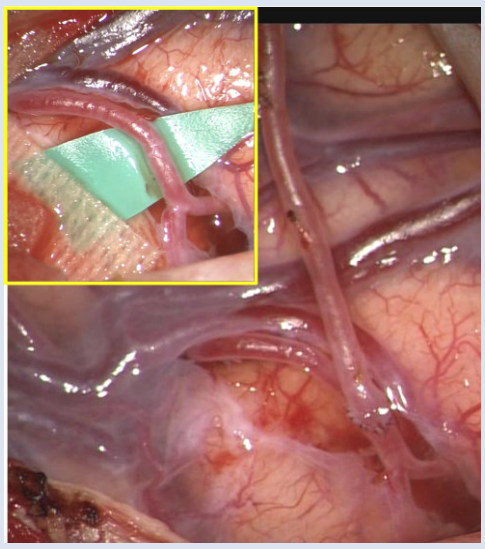
開頭クリッピング術

血管内治療（コイル塞栓術）

くも膜下出血の原因となる脳動脈瘤に対して、行われている治療です。
開頭クリッピングは動脈瘤の首の部分にクリップをかける方法です。血管内治療は動脈瘤の中にプラチナ製のコイルを詰める方法です。どちらも一長一短がありますので、患者さんとよく相談の上、治療を行っています。昨年の開頭と血管内の治療数比は6：4でした。

脳血管閉塞・狭窄病変に対するバイパス術とステント治療

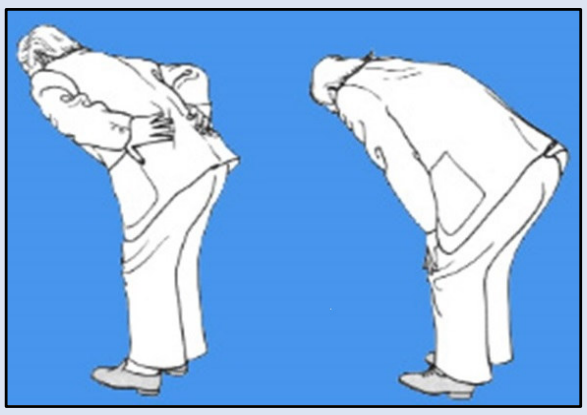
脳梗塞の原因となる閉塞病変に対しては、開頭して皮膚の栄養血管を頭蓋内血管に吻合する手術（バイパス術）を、狭窄病変については心臓領域と同じく狭窄部位を広げる治療（ステント留置術）を行っています。
どちらも再梗塞の予防治療ですので周術期合併症をゼロにすべく細心の注意をはらって安全に実施しております。

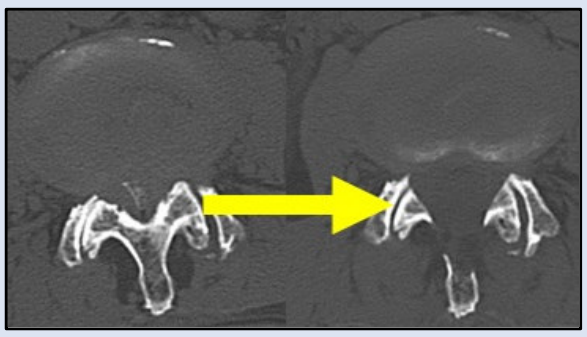


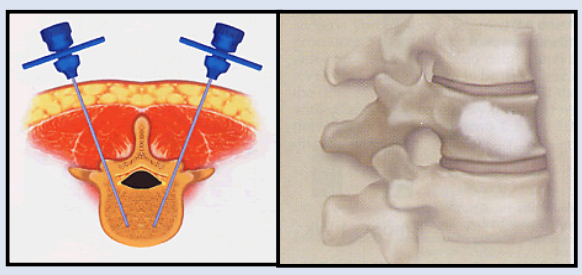
バイパス術

ステント治療

腰部脊柱管狭窄症に対する顕微鏡下開窓術と圧迫骨折に対するセメント治療







腰部脊柱管狭窄症は、壮年以降超高齢者まで遭遇する頻度の最も高い疾患です。間欠性跛行や腰痛で日常生活に支障がでてこられたら、顕微鏡下で椎弓の一部（15ミリほど）と靭帯を除去し、馬尾への圧迫をとります。
当科の全手術中半数以上をしめる疾患で、極力骨を削らない、金属（ボルト）を入れない低侵襲手術を心掛けています。通常10日目ごろに抜糸、退院します。多くの患者さんに日常生活の質の向上（ゴルフができる、旅行買い物にこまらないなどなど）が得られています。
圧迫骨折は高齢者の急な腰痛をみたら真っ先に考える必要がある疾患ですが、当科では平成15年より実施してきたセメント充填術を従来のコルセットの治療と併用しております。即効性があり、日帰りなども可能で遠方よりも多くの方が来られて行っております。現在保険適応となっております。

脳卒中ケアユニット（SCU）と専任スタッフのご紹介

脳卒中はその受け入れから、急性期、亜急性期、回復期と一連の流れの中で、最適の診療が行われる必要があります。当科は、京都府で2番目に脳卒中ケアユニットをたちあげ、多くの患者さんの治療に携わってきましたが、このたび、救命救急医が常勤医として着任し、さらなる診療の向上に努めたいと考えております。

9月1日より着任いたしました。3次救命救急センターの経験を元に、質の高い救急医療、脳卒中医療を提供したいと思います。宜しくお願い致します。

神経救急部部長　杉江亮
〔 脳神経外科専門医　救急専門医
脳卒中専門医 〕

脳卒中リハビリテーション認定看護師のご紹介

脳卒中の診療には、医師のみならず、看護スタッフ、リハビリスタッフ、薬剤師、栄養士などのチーム医療が非常に大切です。当科ではSCUカンファレンスなどを頻回におこない、患者さんのADL回復に努めております。脳卒中リハビリテーション看護の認定看護師が中心となって、チーム医療の実践に望んでいます。

認定看護師
田中沙智

脳卒中リハビリテーション看護は、突然脳卒中を発症された患者さんに、入院初期から合併症の予防や急性期リハビリテーション・早期離床を実施しながら、食事や排泄などの日常生活動作を獲得できるよう支援することです。また、突然の発症で精神的にダメージを受けられた患者さんやご家族の方に、病状が理解しやすい説明や後遺症から想像することが困難な今後をイメージできるよう、さらには必要となる社会資源などの説明を行います。

患者さんを看護する他にも、他職種と協働しながらどのような支援ができるのかを日々考えています。その一つとして、SCU(脳卒中ケアニット)カンファレンスを週2回、脳外科医師とリハビリスタッフ、担当看護師とともに行なっています。脳卒中患者さんに関わる様々な職種が同じ目標に向かって支援できるように頑張っています。また、SCUや脳外科病棟を離れた脳卒中患者さんに対しても、継続した支援ができるよう関連病棟へ出向き患者さんや関わる看護師への支援を行なっています。

現在、脳卒中リハビリテーション看護認定看護師は京都に12名しかおらず、全国的にも決して多くありません。認定看護師の役割は病院内だけにはとどまらず、地域へ目を向け、地域のみなさんが脳卒中予防の健康管理ができるよう支援していきたいと考えています。

【連絡先】地域医療連携室
フリーダイヤル:0120(72)6530
TEL：075(572)6530
FAX：075(572)6276
(Email)：renkei-i@takeda.or.jp
(URL)http://www.takedahp.or.jp/ijinkai/
担当：山本 佳弘　藤原 貴文

～地域医療連携室より一言～
9月17日にｸﾞﾗﾝﾋﾞｱ京都ﾎﾃﾙに於いて地域の先生方をお招きして特別講演会を開催いたしました。
おかげ様で今回で50回を迎え、ご出席いただく先生方も毎回増え続けて今年は40名を越えました。講演会終了後の懇親会も大変盛会裡に終える事ができました。有難うございました。
今後とも宜しくお願い申し上げます。